

下水道事業繰出基準の 見直しについて

宇都宮市上下水道局

①下水道事業の役割

下水道事業の役割



雨水処理

※原則として宅地内雨水を除く



汚水処理

②下水道事業に係る経費負担

雨水処理

浸水防除

社会の便益

雨水公費

汚水処理

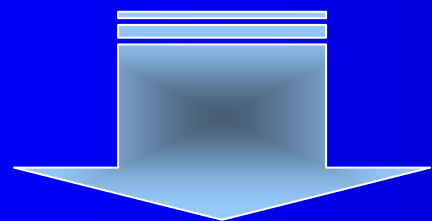
生活環境の改善

個人の便益

汚水私費

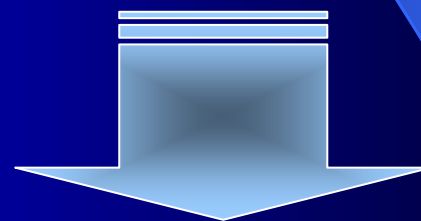
③下水道事業に係る経費の財源

雨水処理に
係る経費



一般会計繰出金
(税金)

汚水処理に
係る経費



下水道使用料

④汚水処理に係る経費

汚水の処理に係る経費

維持管理費

資本費

維持管理費

管渠, ポンプ場,
下水処理場などの
管理費や人件費など

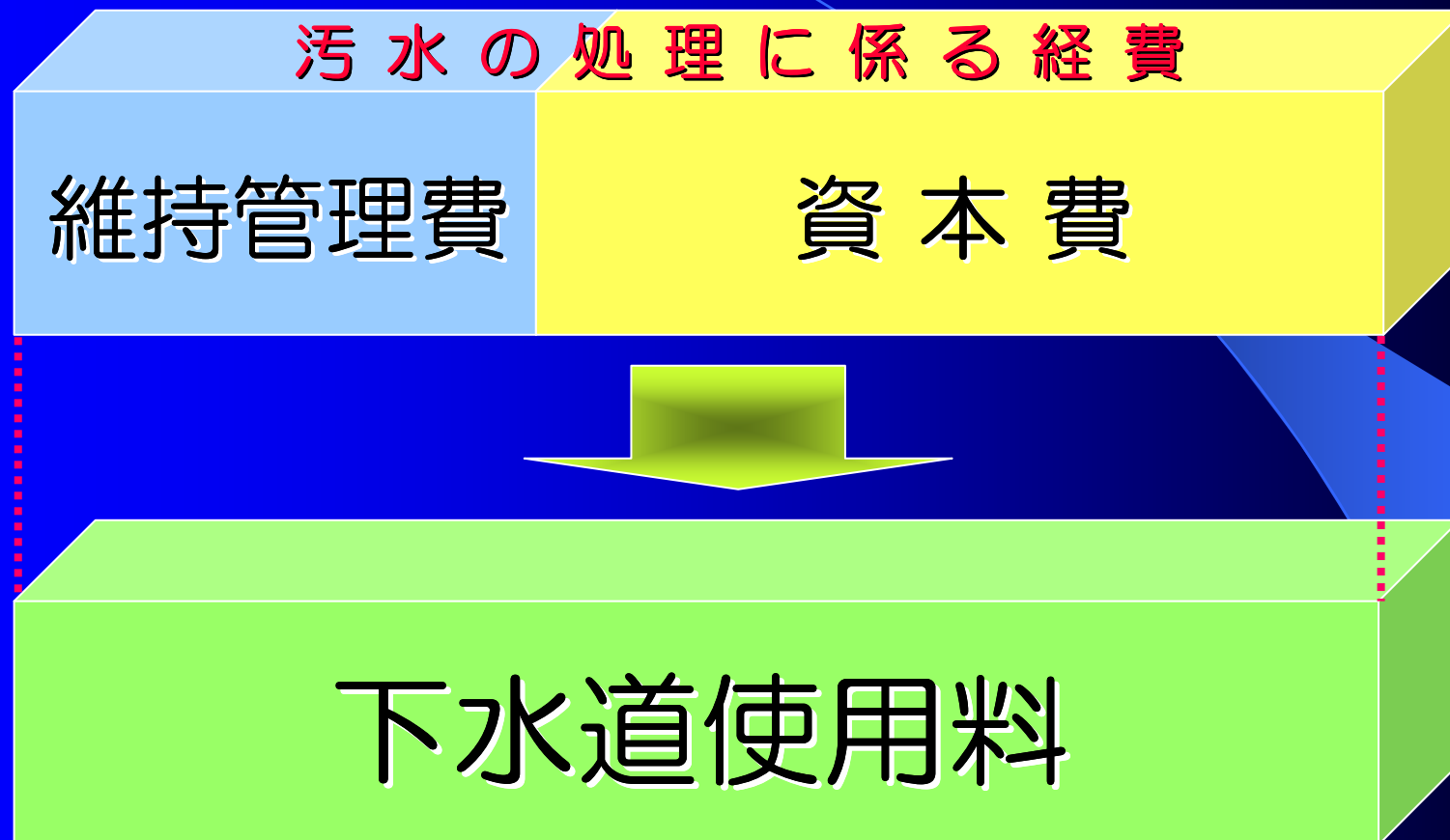
資 本 費

企業債の支払利息,
減価償却費など

※減価償却費とは

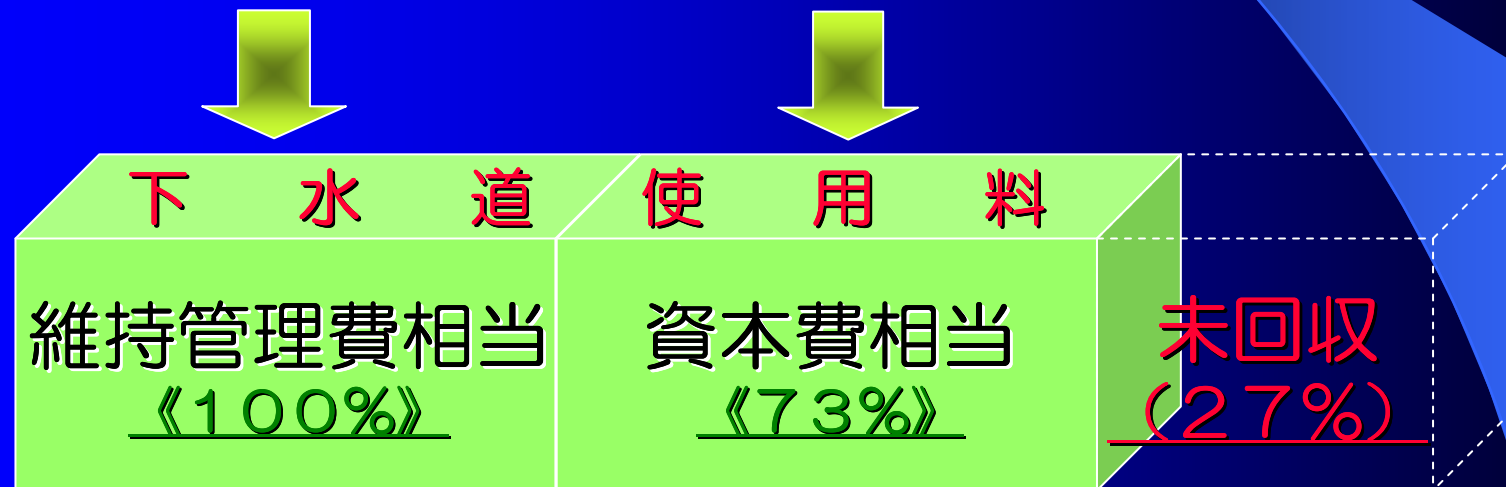
取得した固定資産（建物・管渠など）は、その効果が将来に渡って及ぶことから、各年度に配分して費用化していくこと。

⑤汚水処理経費の財源



下水道使用料＝維持管理費＋資本費⇒収支均衡

⑥宇都宮市の汚水処理経費の財源



一般会計繰出金

A teal arrow points from the '未回収 (27%)' segment of the bar chart down to the text '一般会計繰出金' (General account transfer).

※宇都宮市独自基準(平成7年度審議会)

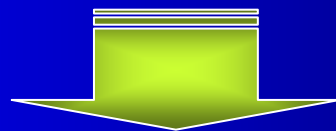
⑦国（総務省）における繰出基準の見直しについて

分流式下水道について

☆公共用水域の水質保全への効果が高い。

☆合流式下水道に比べ、約3倍以上の整備費がかかる。

☆汚水資本費が相当程度割高となっている。

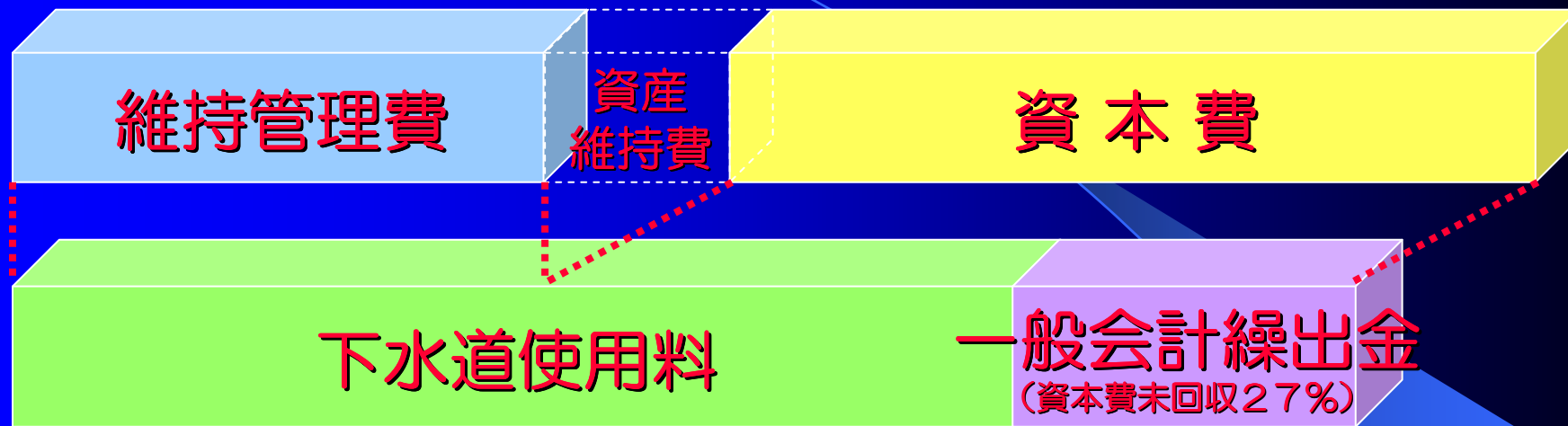


資本費に対して汚水公費の導入

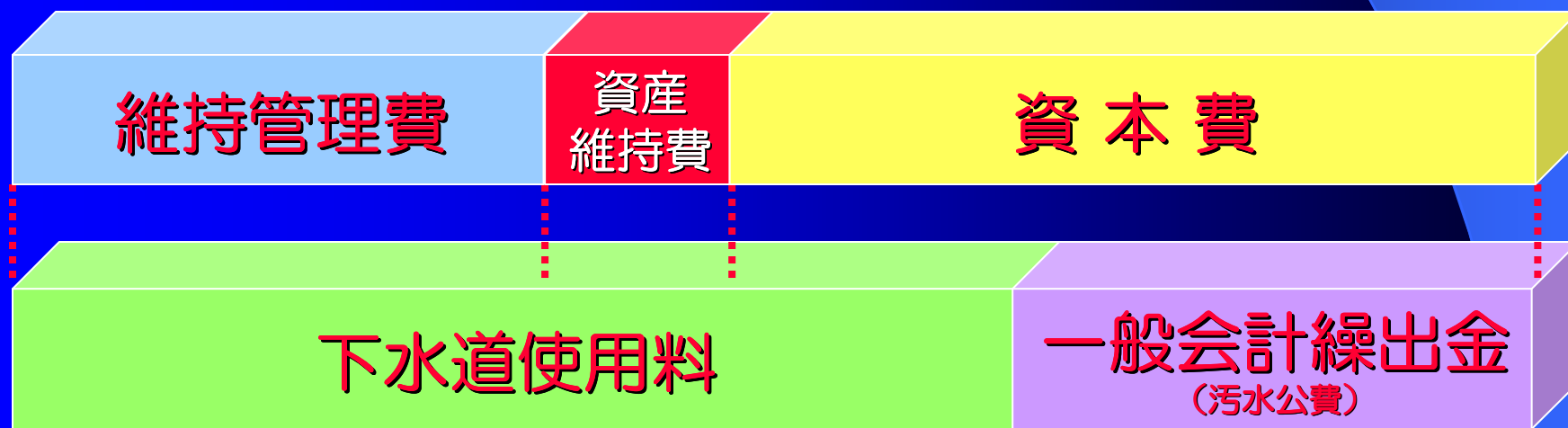
《資本費の40%（公共），60%（特環）》

⑧宇都宮市における繰出基準の見直し（国の基準に準拠）

従来の基準



新基準



※資産維持費・・・将来に渡り健全な経営を維持するために必要な費用

◎新基準による財政収支見通し（平成19年度～平成22年度）

（単位：百万円）

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
収 益 的 収 支	総収益	11,676	11,231	11,150	11,145
	総費用	11,441	10,935	10,838	10,788
	純損益	235	296	312	357
資 本 的 収 支	資本的収入	6,791	4,635	5,151	4,723
	資本的支出	11,378	9,028	9,807	9,542
収 支	収支差引	△4,587	△4,393	△4,656	△4,819

※資本的収支差引は減価償却費などで補てんする。

⑩繰出基準見直しに伴う本市下水道事業財政への影響について

☆経常損益における実質的な赤字の解消

☆一般会計補助金が不要となる

☆予算ベースでの純利益の確保

☆950億円余の企業債残高

☆適正な使用料（使用料単価150円/m³以上）



現行の使用料体系の維持

※本市の使用料単価 153円/m³